

記録には 1,000 年前の兵庫県北部の銀の発掘を詳細に記しており、ある情報源では、それは 807 年にまでさかのぼっている。屋形町は北部の鉾山と姫路の港とを行き交う旅人たちの宿場町として 1600 年代まで栄えていた。江戸時代(1603–1867)町は、日本の軍事政府であった将軍によって支配されていた。鉾山から採取される銀は主に、武士に警護された運び人足によって徒歩で輸送されていた。銀の重要性のため、政府役人はその安全性を確認するためしばしば町を訪れた。1876 年、明治新政府によって生野鉾山と姫路の飾磨津港とを結ぶ道路を近代化させる計画が立ち上がった。彼らは「銀の馬車道(現在は銀の馬車道として知られている生野鉾山寮馬車道)」を建設し、マカダム式の道路が馬車による銀の輸送を可能にした。

最盛期には屋形町に 8 軒の旅館があった。2 軒は「御用宿」と呼ばれる政府役人のため、そして 6 軒は「一般宿」と呼ばれる一般人のためのものだった。また町には 7 人の酒商人と 4 人の金貸し業者、日用品を売るさまざまな店があった。宿場町の当時の建物は今日では一つも残っていないが、訪問すると今も町を通り抜ける旧道路のコースをたどることができる。